「総合的な学習の時間」の単元作成の在り方
－「総合的な学習の時間」編成の手引書の作成を通して－

牛久市立奥野小学校　教諭　川村　美弥子

1　主題設定の理由

平成12年度から新しい学習指導要領の移行措置が始まり,「総合的な学習の時間」の実施に向けて，各学校における積極的な取組が期待されている。この時間では，学び方やものの考え方を育成するとともに，これまで各教科ごとに身に付けようとしていた知識や技能，能力などを総合化するねらいがある。特に知識の総合化という点では，今日一つの教科・領域だけでは取り組みにくい学習課題が出てきていることが挙げられる。例えば国際理解，情報，環境，福祉等の問題である。それらに対する今までの試みの多くは，関連する教科や領域の内容を横断化させたものであるが，今後は「総合的な学習の時間」として，より問題解決的で体験的な学習単元の開発が期待される。

本校が立地している奥野地区には伝統的な行事が多く残され，また，３世代同居の児童が約半数おり，学習活動や学校行事の中には，地域のお年寄りの参加・協力により作られてきたものが多い。そこで本校では,教科や領域を通じて「奥野」という地域を生かした地域教材の開発が進んで行われてきた。最近では,「生きた言葉の学び手が育つ国語科学習」という研究テーマで，地域の施設や人材を積極的に活用したり，複数教科を関連させたりする学習を進めてきている。

このような本校の特色や研究の流れを生かし，奥野小学校にふさわしい「総合的な学習の時間」の編成をしていきたいと考えている。編成にあたっては，本校の特色を明らかにし，子どもたちに付けたい力を明確にした上で，課題設定やねらい等を検討していくことが必要だと考える。このような編成の手順を明確にした手引書を作成していくことを通して,「総合的な学習の時間」の単元作成の在り方を探っていきたいと考え本主題を設定した。

2　研究のねらい

奥野小学校における「総合的な学習の時間」編成の手引書を作成することを通して，「総合的な学習の時間」の単元作成の在り方を探る。

3　研究の内容

(1) 総合的な学習の時間のとらえ方

① 総合的な学習の時間の導入

中央教育審議会第一次答申（平成８年７月）では,「今日，国際理解教育，情報教育，環境教育などを行う社会的要請が強まってきている」ことが指摘され,「これらはいずれの教科等にもかかわる内容を持った教育」であるため,「横断的・総合的な指導を推進していく必要性」が強調された。

さらに，教育課程審議会答申（平成10年７月）では,「多くの知識を教え込むことになりがちであった教育」から,「自ら学び自ら考える力を育成することを重視した教育」へ転換し,「社会の変化に主体的に対応し行動できるようにすることを重視した教育活動を積極的に展開」する必要性が強調されたのである。

この答申を受けて，今回の学習指導要領改訂では，小・中・高等学校とも総合的な学習の時間を教育課程上必置とすることが定められた。

② 総合的な学習の時間のねらい

新しい学習指導要領（平成10年12月）では，次の２点を挙げている。

(1) 自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
(2) 学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにすること。

これらのねらいの最も基本的で重要な点は，子どもの学びのとらえ直しであると考える。私たち教師が子どもの学びを，主体性・創造性という点で具体的にどうとらえ，生かしていくことができるか。そこに，自己の生き方を考えようとする学習の成立があると考える。

(2) 奥野小学校の総合的な学習の時間の方向を探る

本校の総合的な学習の時間の方向を探るために，低学年・中学年・高学年の３ブロックに分かれた校内研修で，次の２点について検討した。

○ 本校の各教科，道徳，特別活動の指導の重点について
○ 各教科，道徳，特別活動で獲得した力を十分に生かし，さらに伸ばしていくための本校の総合的な学習の時間の在り方について

３ブロック研修の内容を，表１に整理した。

表1 「各教科，道徳，特別活動」の指導の重点と「総合的な学習の時間」の構想
＜低学年では＞(一部抜粋)＜中学年では＞

	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習に向けて付けておきたい力
ねらい・活動の	○話したいことを文や音声で相手に伝える，音読や話の聞き方，基本的な計算力 ○昔の遊びや祭りの学習等で地域のお	○基本的な生活習慣（整理整頓，人の話を聞く，友達と仲良く，あいさつなど） ○教科や特別活動でのお年寄りと	○学級活動や縦割り活動を通して→異学年の友達とも楽しく遊ぶ，自分の役割を友達と一緒に取	＜意欲と自信のある奥野っ子の育成を目指す ○自分の思いと友達の思いを合わせた共同学習や縦割り学習活動→問題解決的な学び合い

（重点項目・・・第３学年から開始される総合的な学習の時間への準備）
○ 自分の伝えたいことを自信を持って音声や文，絵，音等で表現する。
○ 自分なりの気付きを持って，友達や教師と学習活動に集中する。
○ 地域のお年寄りや自然観察の指導員と触れ合いながら，豊かな自然を十分に味わう体験学習をしたり，思いに没頭する。
○ 話すこと，書くこと，計算することの基本を身に付ける。

	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の内容として，重点化したいこと
ねらい・活動の形態・配慮事項・評価等について	○概算，筆算，量感等の理解 ○話す力やノート化の力→自分の考えの整理，要点化→分かりやすく伝える力 ○根拠を基にした論理的な考えの気付き ○地域教材やフィールドワーク→地域理解 ○環境教育や福祉教育への関心 ○社会的・科学的なものの見方や考え方に気付く体験的で問題解決的な学習 ○多様な調べ方や追究→学習課題や方法の選択 ○ねらいに即した自己評価や相互評価→自他の学習の，よさの認識	○他者(友達や教師，地域社会の人など)の視点の取り入れ→多様な自分なりの判断力 ○教科の学習と関連させ，障害を持つ人やお年寄りと触れ合う活動→福祉的な心や思いやりの心 ○教科の学習や体験活動を生かした，生命観や自然観の育成 ○よさに気付き認め合い→友達の個性(自分との違い)の認知安心感のある集団の育成 ○自分の考えの変容考えと行動とのずれよりよいものを求める心のすばらしさなどの気付き	○自分でできること，という積極的な思いの実行化→ボランティアの心のはぐくみ ○友達や教師との合意活動，係や当番活動に対する責任感→よりよいものの求め向上心や創意工夫，自治意識の目覚め ○多様な考えの中で協力してやり遂げる喜びやすばらしさ（縦割り活動や学級活動） ○振り返り→自分や友達のよさの実感，客観的に見つめようとするまなざしのはぐくみ	○直接的，継続的な自然観察や地域の人とかかわる学習→地域を知り関心を高め好きになる ○自分や友達の多様な気付き→よりよい気付きの選択→自分なりの課題へ ○小グループでの友達との学び合い→多様な調べ方，表現の仕方 ○教科での学びや経験を生かした多面的な探究活動 ○地域を生かし各教科等との関連を図った福祉教育

（重点項目）

○　自分や友達のよりよい気付きを基に，直接的，継続的な学びを通して論拠に基づいた学習活動を展開していく。

○　身近な自然やお年寄りとかかわりながら学習活動を継続することで，自分にできることは何かという環境教育や福祉教育への気付きをはぐくむ。

○　各教科で身に付けた力を生かし，発展的な学習へ結び付ける。

＜高学年では＞

	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の内容として，重点化したいこと
ねらい・活動の形態・配慮事項・評価等について	○計算力や表現力，資料を読み取る力などの育成 ○ねばり強く問題にあたる→できた喜び ○学習の共通化（課題設定や学習方法及び表現等）を図る→自分なりの選択，まとめや発表→外に向け発信 ○身近で直接的な学習体験と間接的な資料の活用(身近な人・自然・施設体験と図書資料・インターネットなど)教科・領域の関連を図った地域教材の学習→問題解決的な学習 ○よりよく生きていこうと，たゆまぬ努力や工夫を続ける人々の姿→学習過程の中で実感し共感する	○自分の特性（特に長所)を見つめたり，日頃の自分を振り返る場→自信と認め合い，向上心へ ○地域に生活する様々な人の生き方に触れる→将来について考えるきっかけ，福祉の心の耕し ○行事や教科と関連→深い思いの理解と道徳的な実践力へ ○立場や場の設定の違いによる判断の迷い(葛藤教材)→自分なりの解決力多様な考えの広がりと深まり ○自分のよさの認識様々な人の考えに触れ自分を客観化多様な考えの理解	○地域の人との学習活動の経験→「地域に出よう」積極的，行動的な環境・福祉教育→ボランティア活動の実践へ ○縦割り活動の運営→リーダーシップ判断力，行動力，思いやり，創意工夫 ○行事を作り動かす一連の流れの経験→感謝の心や自分たちの成長の認識 ○活動の振り返り→多様な考えが一つの方向に集約されていく流れ，その中での自分の役割等→今後の活動へ生かす ○協力して作り上げやり遂げた満足感や喜び	○継続的発展的な学習活動→問題発見や多様な視点，学習経験の再構成や探究学習 ○地域の人や自然との継続的な学習活動→環境・福祉教育に対する実践力，ボランティア活動へ ○学習課題，内容のとらえ方や発展のさせ方，学習方法など，自分なりのよさへの気付き→友達のとらえ方や教師の支援から，より多角的，発展的な学習へ

（重点項目）

○　直接的な学習体験と多様な資料や学習方法により多角的な視点を育成する。

○　地域の人や自然，施設等を生かした学習活動により，地域に対する関心と理解を深め，地域へ向かう学習へと発展させていく。

○　教科や領域で身に付けた基本的な力を，問題解決のために関連させたり，総合的にとらえようとする。

この表１から見えてくるものは,「本校の特色」,「子どもの姿」,「地域のようす」の３点である。これらを生かしていくことが，本校の総合的な学習の時間を創造していく基盤になると考える。

(3) 奥野小学校としての「中心的な課題」の設定に向けて

本校の特色を生かした取組の中で，指導の重点とする内容を精選してみた。その上で，本校の子どもたちに，今後，付けていきたい力について全職員で検討してみた。今日多くの教育課題が提言されている中で，総合的な学習の時間のねらいに即した特色ある学習活動を展開していくため，本校の「中心的な課題」の設定を検討していった。

設定には，次の４つの観点を考慮した。

ア　総合的な学習の時間のねらい　　イ　本校の取組の中から

ウ　特に付けていきたい力　　エ　地域・学校・児童の特色

これら４点について十分に検討し，本校の「中心的な課題」を，資料１のように設定した。

資料１　奥野小学校の「中心的な課題」の設定に向けて

ア　総合的な学習の時間のねらい

○自ら課題を見付け問題解決
○学び方を身に付ける
○主体的，創造的な態度
○自己の生き方を考える

イ　本校の取組の中から

○伝えたいことを明確に表現する
○地域を生かした学習体験を基にした環境教育や福祉教育
○教科や領域の基本的な力を身に付け，積極的に活用する

本校の「中心的な課題」

○　地域の人や自然，施設を生かした環境教育や福祉教育でボランティアの心のはぐくみと実践的な態度を育成する。
○　地域を生かした学習体験を基に身近な気付きを学習課題に高め，学んだことを生かし探究的な学習活動を展開する

総合的な学習の時間の名称

ウ　特に付けていきたい力

○自分の思いを持って，目的のある探究的な学習活動を展開
○身近なところから課題を見付け学んだことを生かして解決する
○知識や心情，実践力を総合化させ，環境教育や福祉教育でボランティアの心のはぐくみと実践化を目指す

エ　地域・学校・児童の特色

○三世代が多く，学校教育に対する信頼が厚く，協力的である
○昔からの自然が残っており，近くに自然観察や福祉的な施設が多い
○地域を生かし，教科・領域を関連させた国語科学習単元の開発
○本が好きな子どもが多く，図書室の利用が活発
○気持ちが穏やかで，やや消極的

(4) 単元作成について

① 単元作成の手順

本校の「中心的な課題」として，現在のところ環境教育と福祉教育にかかわる内容が設定されてきた。そこで，環境教育を例に，具体的な学習活動である単元作成の手順について，考えてみる。

ア 奥野小学校の環境教育のねらいを，表２のように設定する。

表2 本校の環境教育のねらい

○ 豊かな自然に十分に触れ，奥野の地域の自然や自然観察の施設を生かした環境教育を進める。 ○ 今日的な環境問題を自分なりの問題としてとらえ，今できること，さらに自分なりに将来への見通しを持つことを目指す。

イ 本校のねらいにそって，６年間の学習におけるねらいの設定と，学習内容及び学習方法の概要を低・中・高学年の３つの段階に分け，例示する。

表3 低・中・高学年における環境教育のねらい

低学年	中学年	高学年
身近な自然と直接，心豊かにかかわることで，自然に親しみ，大切にする心をはぐくむ。	身近な自然との継続的で多様な触れ合いを通し，自然愛を深めながら，環境問題に関心を持たせ，住みよい環境づくりに協力しようという態度をはぐくむ。	人間の活動と環境とのかかわりについて，総合的に理解し，よりよい環境づくりや環境保全の態度をはぐくむ。

表4 低・中・高学年における環境教育に関する主な学習活動例

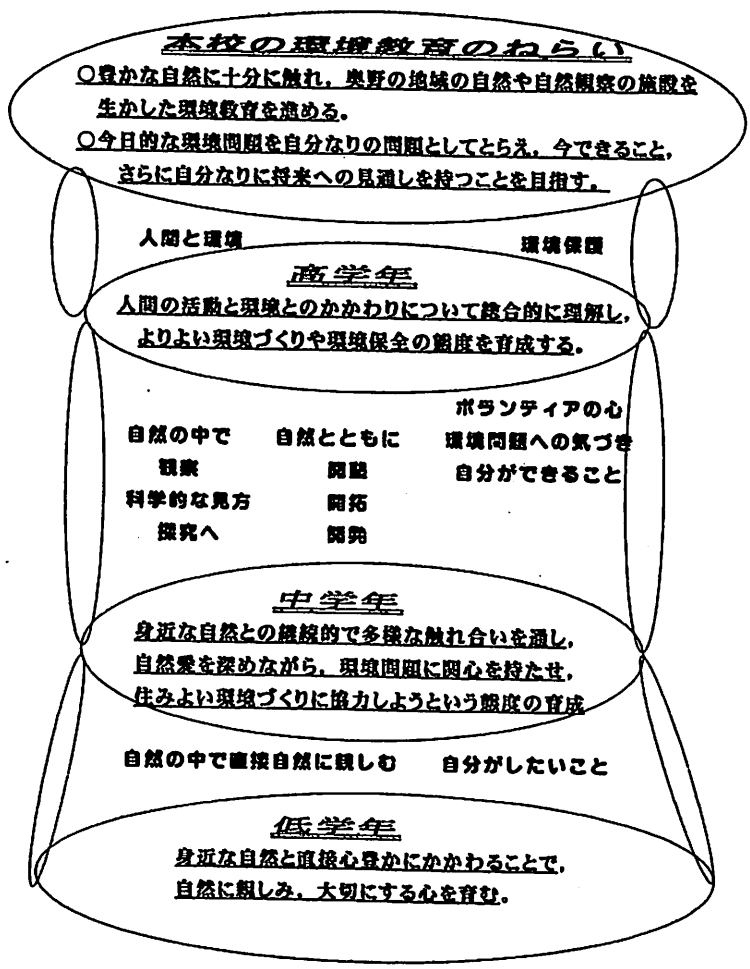
	体験学習	課題設定	調べる	まとめる	発表（発信）
主に低学年で	○生活科を中心に直接的な体験を重視する ○家庭参加 ○校庭や学校の周りの自然や「牛久観察の森」「竜ヶ崎森林公園」などでの活動，レンジャーとの触れ合いを通した学習活動 ○学校内の小動物（うさぎ，ツバメ，虫等）との触れ合いなど	○教師提示→友達とともに共通課題 例：親子ざりがにつり ○共通課題→自分なりの個別の課題 例：ざりがにさんとなかよし ○つりの体験→飼育→気付きの多様化→自分なりの思い	○五感を働かせ，直接，対象物と触れ合ったり遊びを通した調べ学習 ○ざりがにつり→飼育の願い→家で飼った友達や上級生，レンジャーなどに飼育法を聞く。自分で本で調べる	○五感で得た気付きを自分の思いにそって表現（紙芝居や，絵本，ペープサート） ○つったざりがにの絵，飼育法調べ，ざりがに日記 ○学習カードに自分の思いを入れ学習の足跡を残す「自分でもっとしてみたいこと」	○自分が分かったことや思いを，自信を持って発表する ○友達と一緒にお店やさん形式で，発表し合う（友達や親に向けての学習発表会） ○（来年の）１年生に学習成果を伝え，残そうとする。→やる気と自信へ

主に中学年で	○日常の経験を関連させることで自分の中で敷衍できるような意図的な体験や学習の設定 ○レンジャーの協力による校内及び学校や家の近くの自然観察（私の木，定点観察等），ミュージアムパーク遠足（課題別小グループ学習），家のゴミ収集場調査クリーンセンターの見学，牛久沼周辺やひたちのうしく駅周辺等のバスツアー（自然と開発） ○よりよい実践者を目指して家庭とともに　例：親子リサイクル学習会（クリーンセンターにて） ○直接的なものに間接的な体験を有効に組み合わせる。疑問を誘発したり，動的な要因を多く含む体験の設定	○複数の課題から自分なりの課題を選択，設定へ 例：自分の木や好きな場所を見つけて，観察していこう→共通課題と，体験を通してそこから発展させた自分なりの課題へ ○身近な生活や継続的な観察の中からの気付き→科学的，社会的なものの見方→課題の設定 ○自分としての課題を設定し，学習計画を立てていく より的確な課題設定に向け，検討を重ねる ○個の思いや気付きを，多角的に引き出す→課題の整理，複数課題の	○直接的，継続的な調べ方（見学メモ，インタビュー，観察等） ○観察の視点を身に付ける→自分なりの視点付加→正しくものを見る予想を立てて継続的に数値から客観的に等 ○地域に出て実際のものを通しての調べ学習 ○辞書の引き方，図鑑での調べ方，地図の使い方，コンピューター等基本的な資料の使い方を身に付ける ○学習センターとしての図書室の活用と学級文庫の充実→調べていく過程での，学習者による整備	○新聞作り，番組製作等，小集団によるまとめの経験を個人のまとめに生かし，自分なりのよりよい表現を目指そうとする（書くことと音声と，多様なパターンに取り組む学習機会等を通して）（発表内容や方法）・方法や内容的に，多様なまとめかたに，進んで取り組む ○統計的な図表の作成と活用本やインタビュー内容の要点化，教科を横断化した単元構成によって，よりよい表現力を身に付ける ○もっと知りたいこと，自分にできることという視点の付加 ○学習記録カードに基づき，学習（思考）の流れや成果を	○伝え合い，認め合い，もっとよいものを目指そうとする。（自己評価相互評価等で） ○課題別や表現別によるポスターセッション形式による発表会 ○小グループによる訓練→クラスへ（メモをもとに自分の言葉で） ○より広く発信（見学施設や協力者との連絡や礼状等）→作成物の送付（新聞，ポスターパンフレット等→見学施設や協力者へ→学習の交流と発展へ 次年度の学習の接続のため ○音声言語を高める ○今までのものよりもさらによいものをという工夫を重ねながら，学習成果を次の学年に残す ○子ども主体の学習発表会や
主に高学年で	○リサイクル工場や一般の工場がどのように環境に留意している				

	か，地区の工業団地で学習 ○専門的な博物館の見学や専門的な機関の協力による疑似体験 福祉体験教室 科学体験教室 上高津貝塚 国立歴博等	設定→共有化→課題検討と課題選択→個別化	○明確な課題設定により自分なりの調べ方へ ○方法的にも内容的にも多様な資料から的確に選択できる	表現 ○作成して分かってもらう，対象を外に向けたまとめ方→正確な記述とわかりやすい表現	環境フォーラム等の開催(異学年の学習の交流，保護者や学習の協力者，地域へ)

上記の表２，３，４を基に，本校としての６年間を見通した構造図を資料２のように作成してみた。

資料2　奥野小学校の環境教育の構造図(案)



本校としての大きなねらい，低・中・高学年におけるねらい，それらの系統性について，構造的にとらえていくことが大切である。

特に，総合的な学習の時間においては，異年齢集団による学習活動が積極的に取り入れられていくと考える。その場合，学習活動が表面的には同じようでも，それぞれの学年において学習の持つ意味は大きく違う。学習者である子どもたちに，その意味を明確にとらえさせていくことが学習の成立の鍵となる。つまり，一連の学習活動の中に，自分なりの学習として位置付けていくことができるわけである。

本校にとって中心的な教育課題については，上記の手順を参考に作成していきたい。

しかし，総合的な学習の時間では学習内容の規定はなく，今後も児童の思いや願い，地域や学校の特色を生かしたり，社会的な要請等により，様々な教育課題が学習単元として開発されると予想される。そこで，総合的な学習としての成立条件の洗い出し，つまり，本校としての基礎基本を明確にしていくことが大切である。例えば

○人とともに（教師，友達，家の人，異年齢児童，地域の人）
○学習の場（学校，家，身近な施設，牛久市・茨城県・日本・外国への広がり）
○学習の対象（身近なことから広がりを持って）
○体験（直接（間接へ），継続性，発展性）
○学習過程（主に「課題設定」「調べる」「まとめる」「発表（発信）」の４つ）

という５つの学習要素を，本校の総合的な学習の時間の成立条件とし，それらに基づいて学習活動を作り上げ評価していくという方法である。それは，総合的な学習の時間のねらいを本校なりに具体化していくことと言える。今後，子どもたちとともに実践を積み重ねていきながら，作成していく必要があると考えている。

ウ　上記の表４を参考に，学習単元を作成していく。その際，学習内容や課題の決定については，次のような方法が考えられる。

② 内容や課題の検討

総合的な学習の時間の課題として，新しい学習指導要領では，次の３点が例示されている。例示を参考に，学校や地域の特色を生かした単元を検討していく。

ア　横断的・総合的な課題(例えば国際理解，情報，環境，福祉・健康など)

今日，学校教育に要請されている学習課題の主なものがこれである。

本校で「中心的な課題」として取り上げた環境教育を例に考えてみる。

まず，環境教育にかかわる各教科等の学習内容の一部を取り出し，効果が上がると考えられるものを核にして発展させていく。また，教科等で学習したことを発展させて新たな課題を設定する。

例えば，４学年の１年間の学習活動を，環境教育という視点で整理してみる。次に中学年の環境教育で本校が押さえたいねらいに基づき，学習内容の関連が深い単元を効果的に並べ替えていく。その際の学習活動の順序は,「学習のねらい」,「子どもの願いや学習の様子」,「時期や季節」,「施設等の都合」等を配慮して作成する。

資料3　中学年の環境教育の目標

＜目標1＞	＜目標2＞
身近な環境に親しみ，関心を高める。 自然観察の基本的な技能を身に付ける。	身近な環境問題に関心を持つ。 自然の中の人間として，自分なりに環境問題をとらえる。

第4学年における環境教育にかかわる学習活動

ア国語科	①調べたことをまとめ発表する	②読み物「ムササビの森」
イ社会科	③身近な環境を見つめる，「牛久クリーンセンター」見学学習	
ウ理科	④校庭及び身近な自然観察（「牛久自然観察の森」レンジャー	
エ図工科	⑤植物画	⑥ゴミに関するポスター
オ道徳	⑦「わが家は自然観察園」自然愛	
カ特別活動	⑧遠足「ミュージアムパーク」	
キ学年ＰＴＡ活動	⑨親子でリサイクル「牛久クリーンセンター」体験学習（総合的な学習）	

身近な地域の施設や学校行事，保護者の協力等を得て，上記のような学習活動が想定できる。特に積極的な環境教育を進める上で，環境問題に対してよき実践者として子どもたちを育成するために，保護者参加の学習活動は有効であると考える。

特に中学年においては，２年間の生活科を通して，自分の日常生活を，社会や自然，そして様々な人々とのかかわりの中で理解してきた。

かかわりに気付いた児童は，自分としてどういうかかわりに関心があるのか，どのように関わりたいと願っているのか，実際にどうかかわるか，「かかわりの個別化」を図ろうとしていく。しかしそのためには，時に長期にわたる直接体験や，視野を広げたり視点を変えるような体験の設定が必要である。そうした体験を教師は計画的に，時に児童の願いを生かしながら、随時設定していくことが望ましい。

イ　児童の興味・関心に基づく課題

子どもたちが，今までの学習活動や生活経験の中から自分なりに課題を見付け，いろいろな教科で学んだ力を使って，課題を解決していこうとする学習である。課題作りや追究の方法，表現等，子どもたちが自分なりの学習を楽しみながら進めていく。主に，高学年に適した学習と考える。

思いや願いを自らの計画のもと，友達と共に達成しようと努めてきた中学年の学習活動をふまえるならば，高学年では自分なりの課題探求の学習活動へと発展させていきたい。

ここでは，児童と教師とで設定した大テーマをもとに，自分の小テーマを設定し，活動をプログラムしていくことで，学習の個別化を図っていく。

例示した「卒業研究」は，１学期の「修学旅行」の学習活動の発展として位置付けた。１学期の小集団学習における問題解決学習での学び方と充実感を，無理のないように個人学習へと発展させてみた。また，自分なりの課題を見付け発展させていけるように，意図的に各教科等の学習活動や体験学習を，組み込んでみた。

資料４　６学年「卒業研究」<学習活動の流れ>

<１　学　期>	<夏季休業>	<２　学　期>	<３　学　期>
「修学旅行をつくろう」	***「みんなで研究」***		***「卒業研究」***
問題解決的な学習活動 豊かな表現学習 よりよい道徳性 環境教育	**調べ学習** 地域(自然や歴史) 環境や福祉教育 趣味や興味 etc.		**課題解決学習** 自分なりのテーマを 多角的にとらえ 多様な資料と学習方法で 探究していく
調べ学習と豊かな表現活動の学習経験を生かして，「卒業研究」を進める ・修学旅行研究ノート　→　研究ノートの発展的活用　→　研究論文の作成 ・パンフレット，新聞，ビデオ製作 ・主として共同学習　→		*研究の交流* ポスターセッション →	自分なりのテーマで 探究学習
「修学旅行を つくろう」	「５年生に伝えよう 修学旅行」	「牛久市論文コンクール」「一人一研究」 **論文の視点作りのための<体験活動>** ・「牛久の研究」・「福祉体験教室」 ・「星を見る会」・「お話会」お年寄りと	
総合，国語，特活，道徳，社会，図工		総合，国語，理科，社会，道徳	

ウ　地域や学校の特色に応じた課題

本校の例として，全校縦割り活動「まつり－奥野－」が考えられる。「まつり」に関する学習活動を整理統合し，さらに地域の伝統的な行事及び祭りを学習活動として取り込み，新しく「奥野のまつり」として創造していく。

アイウはあくまで例示であって，本質は児童一人一人の問題意識を高め，自分なりの課題を見付け，よりよい方法で解決していくという一連の問題解決的な学習を進めることである。子どもたちにとって体験的で生活的であることが，身に付いた問題解決学習となると考える。また，３つの例示はそれぞれ別々ではなく，学習内容や方法において相互に関係することが多く，総合的な学習を構成する要素ととらえることもできる。(Ｐ９参照)

(5) 指導計画作成の手順

①　学習計画を考える

学習活動を，総合的な学習の時間と各教科，領域へ分類する。

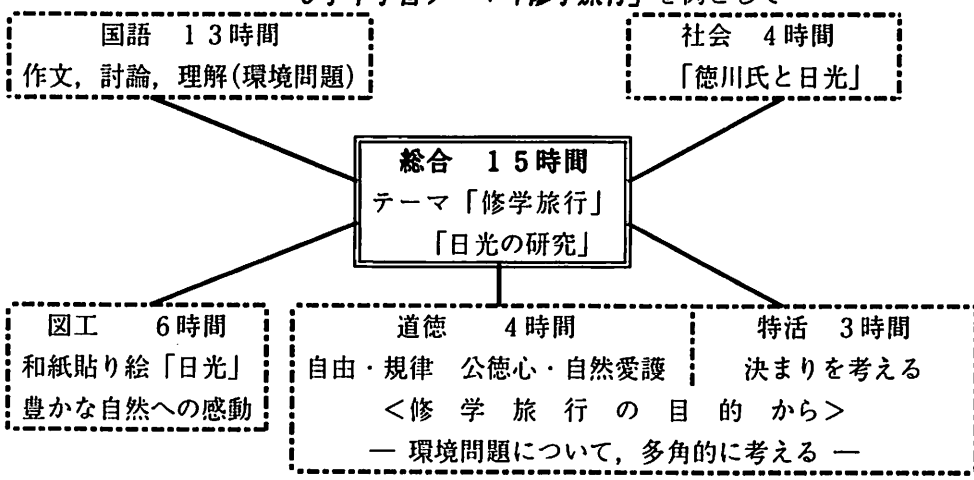
総合的な学習の時間では，各教科等と関連を図って，大きなまとまりのある単元を作っていくことが多く見られる。

下の例は，子どもたちが強い関心や意欲，積極的な態度で望むことが予想される「修学旅行」を中心に置いた総合的な学習である。関連させたいと考える教科等の学習活動を，子どもたちの学習活動の流れにそって，効果的に組み替えていく。

しかし，当初から多くを詰め込みすぎたり，教師主導で様々な要素を含んだ学習活動を設定してしまうことの弊害も大きい。自ら問題を見つけ主体的な学習活動を育むことが，主たる学習のねらいであることを念頭に置き，よりよい指導と支援の融合を目指したい。

資料５＜総合的な学習と各教科，領域への分類＞

***6学年学習テーマ「修学旅行」*を例として**



② 年間授業計画に位置付ける

学習活動によっては，他学年と実施したり，季節や行事等により時期が決まったりする。１年間の見通しを持って，教師の共同作業で作成していく。

③ 週時程表に位置付ける

学習の１単位時間は45分が常例であったが，20分，30分，60分，70分等，適切に設定できることになった。学習内容や子どもたちの学習の様子に応じて，適切な時間設定を工夫していきたい。その際，子どもたちの学習や生活リズムを大切にし，大きな変更や急激な変化のないように留意する。

また，学習内容の関連が深い教科や領域がある場合，集中して実施するなど，週時程の工夫が必要である。

(6) 総合的な学習の時間の評価

① 評価の観点及び評価規準について

小学校学習指導要領解説の総則編（平成１１年５月）の総合的な学習の時間の評価の項目を参考に，表５にまとめてみた。

表5　評価の観点及び評価規準

問題解決	学び方・考え方	主体性・創造性	生　き　方
○　自ら課題を見付け自ら学び自ら考え問題を解決する。	○　情報の集め方調べ方，まとめ方，発表・討論の仕方などを身に付ける	○　問題解決や探究活動に，主体的・創造的に取り組む	○　自分の考えや意見を持ったり自分のよさに気付き，自分に自信を持ったりするなどして自己の生き方について考える。

表５の評価規準に基づき，体験学習，課題設定，調べる，まとめる，発表（発信）の５つの学習活動の場面において，その子なりのよい点，学習に対する意欲や態度，進歩の状況などについて，評価の積み重ねをしていく。それぞれの場面の評価の項目については，子どもたちの学習活動に基づいて，具体的に作成していく。(表４参照)

今後は，本校の総合的な学習の時間を構成する学習要素と学習段階について研究を進め，表１や表４を基にさらに具体的な評価表を作成していく必要がある。

② 評価の方法

ア　自己評価

自ら学び自ら考えるというねらいから，子ども自身が設定した課題や学習計画，追究の過程を振り返り，評価し，改善を図っていく。

イ　相互評価

互いのよさや進歩の状況などについて指摘したり励ましたりして，自分なりの学びを豊かにし，よりよい学びを進めていく。

ウ　具体的な方法

個の学習活動や思考の流れがたどれるような学習計画のプリントやワークシート，ノート，絵などの作品，発表や話合いの様子などから評価したり，取組への意欲や態度，進歩の状況を評価する。

子どもたちにとって，学習の振り返りができ，自分の学習の高まりが分かるような，学習の積み重ねとしての足跡を残していきたい。

③ 「総合」としての評価

総合的な学習の時間を通して，横断的・総合的な思考や知の総合化がどう図れたかについて，次のような観点で評価していく。

○　各教科等で身に付けた力を，総合的な学習の時間へ生かしている。
○　総合的な学習の時間で身に付けた力を，各教科等で生かしている。
○　生活の中で身に付けた力を，総合的な学習の時間へ取り入れている。

④ 総合的な学習の時間の指導計画の評価

実施してきたことや作り上げてきたことの見直しや検討が大切である。それは，地域や子どもたちとともに作り上げ，実施してきた学習活動の評価と言える。慎重に計画を立てて実施し，評価し，振り返って軌道修正を図ること，という地道な積み重ねが，総合的な学習の時間を創造し続けていく過程と考える。

４　研究のまとめ

教科書のない学習となる総合的な学習の時間の編成をすすめるには，子どもの学びのとらえ直しが必要であり，学校の創意工夫が求められている。それは学校の全教職員で協力してつくり，子どもを主体にしながら実践を積み上げていく手作りの世界である。

今回の研究では，奥野小学校における総合的な学習の時間の編成の手引書を作成することを通して，単元作成の在り方について次のようにまとめた。

(1) 総合的な学習の時間の単元作成をするために，全教職員で地域や学校，本校の子どもたちの実態や特色をとらえ直してきた。その過程をまとめていくことで，本校の総合的な学習の時間の実践化に向けての方向付けを図った。
(2) 総合的な学習の時間が本校として特色ある時間となるためには，地域や学校，児童の特色を十分に踏まえた，本校としての「中心的な課題」の設定が大切であることが分かった。今回の研究では,「中心的な課題」が設定される一つの道筋を明らかにした。
(3) 総合的な学習の時間の単元作成の手順，指導計画，評価に関する手引書を作成することができ，今後の本校における実践の見通しがついた。

5　今後の課題
(1) 今回作成した手引書を基に校内研修を進め，全職員で，本校としての総合的な学習の時間の編成を進めていきたい。
(2) 手引書の不十分な点を改善しながら，よりよい総合的な学習の時間を目指して取り組んでいきたい。
(3) 各教科，道徳，特別活動と総合的な学習の時間の基礎・基本を明確にした上で，相互の関連付けを生かした学習を創造していきたい。
(4) 本校の総合的な学習の時間の基礎基本を明確にしていくことで，単元作成や評価に関する研究を進めていきたい。

＜参考文献＞
「総合的な学習」実践研究会『総合的な学習の実践事例と解説』第一法規，1999
神戸大学発達科学部附属明石小学校研究会『生きる力を育む総合学習の展開』東洋館出版社，1997
高階玲治編『実践クロスカリキュラム』図書文化，1996